

会議記録（要旨）

会議名	平成30年度 第3回杉並区子ども読書活動推進懇談会
日時	平成31年1月21日（月） 午後6時～8時
場所	中央図書館 地下視聴覚ホール
出席者	委員 岩崎委員、スギヤマ委員、滝田委員、石川委員、中山委員、赤荻委員 (欠席：楠本委員、鈴木委員)
	事務局 中央図書館長、中央図書館次長、事業係（石栗係長）、資料相談係（佐川係長）、 企画運営係（本橋係長、鈴木、早川）
配付資料	平成30年度 第3回杉並区子ども読書活動推進懇談会 次第 資料1 改修工事期間中の対応について 資料2 「杉並区子ども読書活動推進進捗管理票（30年度第2四半期）」 その他 各委員持ち寄り資料
<p>1 開会</p> <p>2 中央図書館長あいさつ</p> <p>3 改修工事期間中の対応について (中央図書館は改修工事のため、平成31年4月～32年8月にかけて休館予定。その間のスケジュールや図書館運営について中央図書館次長から説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央図書館休館中はセンター館機能維持のため、管理係、企画運営係、事業係、資料相談係は、済美教育センター内の仮設事務所に移転する。</li> <li>郷土博物館分館東棟1階に荻窪臨時図書窓口を開設し、予約本の受取・返却と蔵書検索サービスを実施する。</li> <li>中央図書館の蔵書のうち、貸出の多い一般図書及び中央図書館のみ所蔵する資料の一部を、高井戸図書館の地下閉架に移送・収蔵し、予約による貸出と高井戸図書館での閲覧を実施する。その他の中央図書館の蔵書は、民間倉庫へ移送のうえ保管する。</li> <li>ブックスタート事業や障がい者向けサービス等、センター館として実施している事業については、仮設事務所および地域図書館で従来通り実施する。</li> </ul> <p>〈質疑応答〉</p> <p>委員 高井戸図書館に移送する資料は何冊くらいか？またそれはどのように選別するのか？</p> <p>事務局 一般開架で過去5年以内に購入した資料、今後工事期間中に購入する資料が高井戸行きになる。また、区内で1冊しか所蔵のない参考資料や、地図、新聞縮刷版、杉並資料、調べ学習用の資料も同じく高井戸図書館で保管する。現在、高井戸図書館保存庫にある古い資料は、外部の民間倉庫に移送する予定である。</p> <p>委員 現在高井戸図書館にある古い資料は、区内に1冊しかない本であっても民間倉庫に行ってしまうのか？</p> <p>事務局 選別や抜き取りの手間や作業を考えるとやむを得ない。都立図書館や他市区町村からの</p>	

相互貸借の活用も考えている。

委員 学校への団体貸出で行っている各校への配送サービスは、中央図書館休館中も継続されるのか？

事務局 現在と同じ形での継続はできない。不都合がある場合は、個別に相談してもらい対応することになる。学校司書が借りられる本の数は増やす予定である。

事務局 中央図書館の事務室は済美教育センターに移転し、学校図書館担当と同居することになるので、連携は取りやすくなる。

委員 職員は45名程度いるとのことだが、職員ごとに担当の地域図書館が決まっているのか？

事務局 地域図書館ごとではなく、担当は機能別・業務別に分かれている。

委員 改修工事のスケジュールがややタイトに感じられる。

事務局 職員が図書館に残っていると効率よく工事が進まないため、一回完全に別の場所に事務所を移すことになる。工事期間は正味1年1か月くらいだが、蔵書の一時移設や書架の整理・調整の作業期間が必要なため、このようなスケジュールになる。

#### 4 平成30年度子ども読書活動推進進捗管理票の報告

(平成30年度第2四半期に行われた事業のうち、新しいもの、特徴のあるもの、興味深いものをピックアップして事務局から報告)

- ・方南図書館「歌とおはなし たのしむかい？」
- ・夏休み読書チャレンジ、スタンプラリー、図書館ツアー（中央、阿佐谷、南荻窪の事例紹介）
- ・高井戸図書館「夏休みちびっこシアター（あえて16ミリ映写機を使用）
- ・西荻北子供園の絵本コーナーの魅力ある棚作り、適正な購入と除籍について、済美教育センターの学校図書館支援担当が協力
- ・学校内での上級生による下級生への読み聞かせ、中学生による小学生への、また小学生による保育園児への読み聞かせ
- ・学校司書の工夫によるさまざまな読書法（リレー読書、お試し読書、芋づる式読書 etc.）
- ・『すぎなみ教育報』に連載記事「ようこそ学校図書館」を掲載
- ・校長をトップにした学校内組織「図書館連絡会」「図書館協議会」の拡充
- ・ICT支援員の協力による、学校図書館資料とタブレットの併用による調べ学習の推進
- ・「SGDs」教育をテーマに、教員・学校司書研修を実施
- ・「杉並区子ども読書月間標語」を募集
- ・「図書館で調べる学習コンクール」実施→杉並の児童が全国大会で入賞したことを報告
- ・夏休みのいきもの、昆虫関連の体験型イベント（宮前、南荻窪の事例紹介）。
- ・学校司書、中学生と協力して作成した中学生向けブックリスト（永福の事例紹介）
- ・阿佐谷図書館での中学生有志によるおはなし会
- ・NPO法人ブックスタートの現場見学対応
- ・生涯学習推進課作成の「夏休み情報カレンダー」へ情報提供
- ・高円寺地域のイベントカレンダーに高円寺図書館が情報提供

〈質疑応答〉

委員 16mm フィルムの番組は、区が購入したものなのか、あるいは区が制作した記録映像のようなものなのか？「区制〇〇年記念」のような興味深い過去の映像もあるようなので、そうしたものを上映しても面白いと思う。

- 事務局 持っているソフトは購入した映画等が多い。過去の記録映像は広報課が制作したものが複数あり、広報課がアーカイブ化している。中央図書館でも所蔵している。
- 委員 You tube に配信された区の記録映像作品を見たが、大変興味深かった。図書館で上映会などしても良いのでは？
- 事務局 先日、中央図書館でも上映会は実施した。
- 委員 宮前図書館では、夏休みのスタンプラリー用に毎年オリジナル消しゴムスタンプを手作りしている。昨年の景品はこの「みゃーまえくんファイル」でした（実物を見せる）。また、これまでのブックスタートのブックレットはイギリス版の翻訳だったが、2年前に日本オリジナル版が作られた。現在のブックスタートの事務局長は、実力派の児童図書編集者だった人物で、子どもの本に造詣が深く期待ができる。
- 委員 学校図書館サポートデスクは、各学校からの相談を受けているようだが、相談の傾向のようなものがあれば教えてほしい。
- 事務局 学校司書からは、電話相談で特定テーマの本の集め方、図書館を使った調べ学習について等の質問が多く寄せられる。学校訪問した際には、除籍、買い替えなど蔵書に関するアドバイスを多く求められる。現在は専門のスタッフもいるので、幅広く相談に応じている。
- 委員 電子書籍の導入についてどのように考えているのか？出版社は学校向けの電子書籍のデモ版を作っていて、実用化の一手手前である。電子書籍は、同じ本を大量に必要とする学校のニーズには向いており、導入の予定等はあるのか？
- 事務局 電子書籍に関しては予算の問題もあり、現在のところ検討はしていない。デジタルアーカイブ化は進めている。学校の電子書籍導入状況は把握していない。
- 委員 教科書のデジタル版は導入されているが、図書に関してはまだ活用していない。
- 委員 4月から学校向け電子図書が実用化されるので、書店を通じて案内は届くと思う。今すぐでなくとも、タブレットから同時に40アクセスOK、といった学校現場に合わせた仕様になっているので、導入を考えても良いのでは。百科事典は電子版がすでに出ているので、こちらも検討する価値はある。電子版は動画や音声にすぐアクセスできるので、学校司書が配置されていれば非常に活用できると思う。
- 委員 中学生有志によるおはなし会は大変素晴らし。また、方南図書館でも学生さんが歌とおはなしの会をしてくれているそうだが、そういった人材をうまくマッチングできる仕組みがあると良いと思う。また、図書館行事の景品、作品といったものも、図書館活動の成果物として公開するのも大変良いことだと思う。
- 事務局 中学校の家庭科で作った作品を図書館で展示したり、それをHPで紹介するなど、少しずつだが連携は進んでいる。
- 委員 学校図書館と校長の関係について話があったが、長野県茅野市のように校長が学校図書館長を務めている、ということなのか。
- 事務局 学校長が「図書館協議会」「図書館連絡会」といった組織の長になり、組織の活性化が進んでいる、という報告を受けている。校長が図書館長に就任、という話ではない。
- 委員 杉並区の「調べる学習コンクール」の作品提出の方法だが、学校司書がとりまとめているのか、あるいは直接公共図書館に持ち込まれているのか？
- 事務局 応募に関しては各学校の先生方が、学年ごとに取りまとめて図書館に持ち込むケースが多い。個人で図書館に応募するケースも少ないがある。
- 委員 直接公共図書館に応募する場合、自動車を使わないと図書館に行けないような地域で

は、親の熱意の有無によって応募に影響が出る。学校で取りまとめた方が条件は平等になる。親の姿勢が作品の質を左右するケースは散見される。

委員 「調べる学習コンクール」は、子どもの力だけでなく親の力や熱意が作品の質を左右しがち、という点について研究者に質問したところ、「いいんじゃないですか」と言われた経験がある。

委員 杉並は全校に学校司書が配置されるなど恵まれた環境だが、車で30分かかるなど、図書館に行くこと自体が親に左右される地域も少なくない。

委員 読書活動や調べる学習コンクールのほかに、情報リテラシーの教育、子ども自身がスキルアップしていけるような企画があると良い。

## 5 その他、自由討議

(各委員持ち寄り資料)

- ・「図書館に見る新しい“公共”の形」「公共図書館の四空間モデル」「書を捨てよ、博物館に行こう!」「東京学芸大学学校図書館運営専門委員会」「学校図書館の学び講座」
- ・「70年に延長された著作権とその影響」
- ・ジルベルト文庫便り
- ・最近の学校図書館(中学校)の動き
- ・美しすぎる近未来的図書館「天津美浜図書館」、シアトルの図書館、フランス「読書の夕べ」
- ・福岡、山形、小金井市、三鷹市等で行われたイベント報告等

### 〈次回開催予定〉

平成31年5月20日(月)または27日(月) 午後6時～

※ただし、新年度のためメンバーの入れ替わりがあり、中央図書館改修工事により現時点では会場の確保ができないため、日程については柔軟に対応する。